

「友のまち」をめざして

札幌市を拠点に、歌の種を直接手渡しする旅を続ける一座、それが北海道歌旅座です。

旅の始まりは2009年2月26日。10曲にも満たないレパートリーを携えてステージに立ったのが、春まだ遠く雪深き街、北海道夕張市でした。

「どんな小さな会場でも電源と雨や雪をしのげる屋根さえあればステージを作れるのだから、北海道のすべての180市町村(現在は179)に、歌を届けようじゃないか!」という熱い志を御旗に掲げた日でもあります。



当初、全道制覇は数年で達成できるものと目論んでおりましたが、いやはや、それがなかなか、どうして。やはり北海道は広い!! 生まれ育ったこの土地の広大さを、歌旅座メンバーはあらためて実感していく毎日。

すべての市町村での公演という目標には時間がかかりますが、それでも着実に公演回数を重ね、そのステージを通して生まれた縁から、幾度も訪れる街がどれほど増えていったことか。そして、その縁は確実に人から人へと結びつき、新たな街へと広がり続け、今では北海道という枠を越えて、こうして日本全国の市町村に赴いて歌をお届けする旅が実現できるようになったのです。

歌旅座の公演には、三本の柱があります。ひとつが、歌旅座オリジナルの楽曲たち。初めてお聴きになる方々にも吉田淳子が父と母を、そして故郷を深く詩う姿に必ず共感していただけると自負しております。

つぎに挙げたいのが、ニッポンが輝いていた昭和の歌の数々。懐かしい歌謡曲や演歌・フォークソングまで。昭和の歌には当時の想い出と一緒に運んでくれる力強さがあります。吉田淳子のヴォーカルと、高杉奈梨子のヴァイオリン、ザ・サーモンズのコーラスと伴奏。会場がひとつになって華やかな時間が生まれます。

最後の柱は、曲と共にステージに映し出される映像です。時代を思い起こさせる懐かしい光景や、北海道を中心とした美しく、時に雄々しい風景はステージを彩るもう一人の演者のようです。これら三本の柱を織り交ぜて今日も北海道歌旅座の公演はどこかの街で幕を開けます。

歌旅座にとっての初めましての街は、その公演を終えると友の街へと変わります。久しぶりの街では旧交を温めに、幾度も訪れると、そこは親友の街と言えるでしょう。

そうしていつしか、日本全国が大切な友の街となるよう、「ニッポン全国市町村公演」と銘打って、これからも旅を続けていくのです。

この文を読んでくださった貴方にも、どうか歌の種が届きますように……。

作詞家 比埜うたかほ



出演 **北海道歌旅座** 060-0006 札幌市中央区北6条西18丁目11-10
TEL 011-623-6680 MAIL info@dmj.fm

北海道歌旅座



ヨシダ・ジュンコ
吉田淳子 (JUNCO)
歌・ピアノ・作詞・作曲
北海道浜益村(現・石狩市)生まれ。06年、北海道の音楽祭でグランプリ受賞。歌旅座の結成を導き、09年に「北海道180市町村公演」、後の「ニッポン全国市町村公演」をスタート。一座の看板シンガーとして活躍中。アジア13ヵ国の歌手が集結した「タイ国王・在位63周年記念コンサート」に唯一の日本代表として出演。



タカスギ・ナリコ
高杉奈梨子
ヴァイオリン
北海道札幌市生まれ。ヴァイオリン奏者として結成まもない歌旅座に加入。11年にクラシック音楽中心の演奏で『夜想曲(ノクターン)』でソロデビュー。続く『蘇州夜曲』では昭和の名曲を、3作目『海を見ていた午後』では荒井由実(ユーミン)をカバー、そして4作目『晩夏』を発表、いずれも高い評価を得ている。

ザ・サーモンズ

ケーゴ(コーラス・ギター) アリー(コーラス・ギター) 司会太郎(進行・コーラス・管楽器)



「歌旅千社札」大募集!

千社札…神社や仏閣に参拝した記念として貼る物で、自分の名前や住所を書き込んだお札のこと。江戸時代には庶民のあいだで流行した縁起物。
歌旅千社札…トラックの歌旅号(機材車)の荷台ボディにあなただのお名前を千社札として貼り付けます。世界に1つだけのデザインで皆様と歌旅座、いっしょに全国へ旅立ちましょう!



歌旅座といっしょに旅をしよう! これが「歌旅号」。全国を疾走します!



お名前・市区町村名、社名・英語やペット名でも! 一式 **¥5000** (税込)
サイズ: たて150×よこ50mm 紙質: 耐水・耐紫外線・強粘着シート使用 枚数: 2枚印刷 (1枚はご注文者に贈呈!)

